

# 岐阜大学のとりくみ

## 2009.4 ▶ 2009.09

### 4月 平成21年度入学式を挙行

4月7日、長良川国際会議場において入学式が行われました。連合農学研究科および連合獣医学研究科については4月10日に本学講堂において行われました。今年度は、学部1年生1311名、学部編入学生94名、大学院生592名が入学しました。

学部入学生への告辞において、森秀樹学長は「みなさんには、世の中の大きな転換期に大学生になることを、いろいろな可能性にチャレンジする大きなチャンスであると捉え、これからの社会がどの方向に向かうかをしっかり見届け、自分を磨きつつ、自分が社会にどのように参画するかをよく考えながら学生生活を送っていただきたいと思います」と述べ、新入生を激励しました。

◎森学長の告辞は大学ホームページからご覧いただけます。



### 4月 医学部が忠北大学医学部(韓国)と交流協定を締結

大学院医学系研究科・医学部は4月17日、忠北大学医学部(韓国)と部局間の学術交流協定を締結しました。当日は、Jae-Woon Choi 医学部長、Yong Min Kim 整形外科教授、Ahn, Hee Yul 薬理学教授の3名が来日し、土肥副学長、犬塚医学系研究科長および清水克時教授立ち会いのもとで調印式が行われました。

この協定は、学生交流および研究者交流を行い、大学間の教育研究および学術研究を促進することを目的としています。今後は大学間協定に発展させることを視野に入れ、定期的に訪問活動を進めていきます。

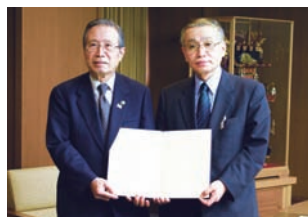


### 4月 高山市と包括連携協定を締結

岐阜大学は4月17日、岐阜県高山市との間で連携・協力に関する協定を締結しました。この協定は、多様な分野で包括的に連携・協力を行い、地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的としています。

協定締結後、土野市長は「さまざまな分野で連携を深め、地域の特性や個性を生かした創造的な取り組みを促進していきたい」とあいさつし、森学長は「ライフサイエンスなどの知識を生かし、地域の発展に貢献したい」と応えました。

今回の協定は本学にとって、岐阜県・大垣市・各務原市・羽島市・関市・美濃市・岐阜市に続く8件目の包括連携協定となります。



### 4月 塩見美喜子氏(本学旧農学部農芸化学科卒業生)が第29回猿橋賞を受賞

本学卒業生の塩見美喜子氏(慶應義塾大学総合医科学研究センター准教授)が4月20日、自然科学の分野で顕著な研究業績を収めた女性科学者に贈呈される猿橋賞(※)の受賞者に選ばれました。受賞した研究題目は「RNAサイレンシング作用機序の研究」で、RNAで遺伝子の発現を抑制する「RNAサイレンシング」のしくみを分子レベルで解明することをめざし、その成果が評価されました。

次号(平成22年4月発行)の「岐大のいぶき」では在学生在が塩見先生をインタビュー取材します。女性研究者として活躍中の塩見先生に社会人として未来を生きるヒントをいただき、これからどう生きるべきかを模索する学生にとって示唆に富む内容になると思います。お楽しみに。

※猿橋賞:「女性科学者に明るい未来をの会」(1980年創立)が、自然科学の分野で顕著な研究業績を収めた女性科学者に贈呈する賞。



### 5月 中国・上海市に海外拠点を設置

岐阜大学は5月11日、本学工学部卒業生で、岐阜大学中国同窓会事務局を務めている于平(ユーピン)氏と「岐阜大学上海オフィス」の覚書を中国上海市にて締結しました。この覚書は、上海市に事務所を設置し、中国人学生・研究者との交流を促進することを目的としています。

また、同日に開催された「岐阜大学中国同窓会」において、森学長は「本学の国際化を促進するための情報の拠点として上海オフィスを設置した。中国からの留学生が本学を活性化することを期待している。上海地区の企業や岐阜にゆかりのある企業など地域に貢献していきたい」とあいさつしました。



### 6月 応用生物科学部が財団法人名古屋みなと振興財団(名古屋港水族館)と学術交流協定を締結

応用生物科学部は6月8日、財団法人名古屋みなと振興財団(名古屋港水族館)と学術交流協定を締結しました。

この協定は、野生動物の病理学的研究および種の保存に関する情報および技術の相互交換、ならびに共同学術研究を基に、野生動物の教育的展示をより一層発展・促進することを目的としています。

昨年、同水族館で飼育していたシャチの「クー」の死後、同学部で死因解明したことがきっかけとなり今回の協定が実現しました。協定締結後、小見山章応用生物科学部長は「視野の異なる研究者の交流が可能となり、教育分野にも反映できる素晴らしい関係ができた」とあいさつしました。



6月

## 世界トップレベル国際研究拠点 「物質－細胞統合システム拠点 (iCeMS)」 岐阜大学サテライト研究施設が完成

世界トップレベル国際研究拠点・京都大学「物質－細胞統合システム拠点 (iCeMS=アイセムス)」の岐阜大学サテライト研究施設が完成し、6月26日、関係者に公開、披露式典を開催しました。

アイセムスのサテライト機関は国内では本学のみであり、アイセムスの主任研究者である本学応用生物科学部・木曾眞教授を中心にこの施設で研究が進められていきます。施設は連合大学院棟4階に設置し、フード付きの実験台などを備え安全面に配慮されています。

式典には、アイセムスの中辻憲夫拠点長や森学長らが出席し、中辻拠点長からは「パーフェクトな施設ができ、とてもうれしい。今後の研究成果がレベルアップする」と期待を込めたあいさつがありました。



7月

## 文部科学省の平成21年度 「戦略的大学連携支援プログラム」に 2件採択

### 「ネットワーク大学コンソーシアム岐阜を基盤とした 駅前サテライト型教育システムの構築」

岐阜大学を代表校とし、岐阜県立看護大学、岐阜薬科大学、朝日大学、岐阜経済大学、岐阜女子大学、岐阜聖徳学園大学、中京学院大学、中部学院大学、東海学院大学、岐阜市立女子短期大学、大垣女子短期大学、岐阜聖徳学園大学短期大学部、中部学院大学短期大学部、東海学院大学短期大学部、中日本自動車短期大学、岐阜工業高等専門学校の17校が上記のテーマで申請し、採択されました。

今回採択されたプログラムは、これまでに築いてきたコンソーシアムの連携実績を基にして連携事業(単位互換事業、共同授業事業(生涯学習支援)、高大連携事業、教員免許更新講習事業、広報事業など)を拡充するとともに、利便性の高い岐阜駅サテライトを新たに設置し、ここを基盤とする運営体制を整備して大学および地域における教育活動の活性化を促進させます。

この事業によりコンソーシアムの法人格の取得を進め、10年後には岐阜駅サテライトを基軸とする共同教育課程(英語教育、経営・政策など)の設置をめざします。

### 「獣医・動物医科学系教育コンソーシアムによる 社会の安全・安心に貢献する人材の育成」

鳥取大学を代表校とする岐阜大学および京都産業大学が上記のテーマで申請し、採択されました。

今回採択されたプログラムは、鳥取大学、岐阜大学および京都産業大学が連携して社会科学系分野を加えた3大学連携の獣医・動物医科学系コンソーシアムを構築し、獣医学・環境保全学および社会科学の融合を図り、社会の安全・安心に貢献する新しい教育体系を創成します。

プログラムでは、この新しい教育を通じ、緊急度および社会的ニーズが高い野生動物や家畜を起因とする、人獣共通感染症などの社会不安を解消する能力を有する高度職業人の養成をめざします。

8月

## オープンキャンパス2009を開催

8月6日・7日、オープンキャンパス2009を開催しました。両日とも30度を超す暑い日差しの中、昨年を1400名以上も上回る4712名の方にご来場いただきました。

各学部では、模擬講義・体験実習・施設見学や入試説明などを実施し、大学の先端技術やキャンパスライフに触れていただきました。また、在学生がキャンパスを案内する岐大ツアーやトークブースなど、在学生が岐阜大学の魅力を伝える企画もあり、盛況のなか終了しました。



8月

## ダッカオフィスを開所、覚書を締結

岐阜大学は8月7日、バングラデシュ人民共和国ダッカ市内で通信・教育事業などを行っているBJ International Co.(Pvt) Ltd.と、岐阜大学ダッカオフィスに関する覚書を取り交わしました。海外拠点となるダッカオフィスとの覚書締結は、本学にとって上海に続く2件目となりました。この覚書は、バングラデシュの高等教育機関などとの国際共同研究・教育、学生交流事業などの国際学術交流の促進などを目的としています。

また、覚書の締結に先立ち、バングラデシュ大使ASHRAF-UD-DOULA氏と懇談し、岐阜大学とバングラデシュとの留学生交流における近年の動向を中心とした意見交換を行いました。ダッカオフィスの開所によって両国の交流がさらに緊密となり、より多くの学術情報が活発に交換できるようになることが期待されます。



9月

## 応用生物科学部が岐阜県域の 農林業教育機関との連携覚書を締結

本学応用生物科学部と岐阜県農業大学校、岐阜県立森林文化アカデミー、岐阜県立国際園芸アカデミー、岐阜県内農業関係高等学校は、9月4日に「岐阜県域の農林業教育機関の連携に関する覚書」、通称「岐阜県域農林業教育システム」を締結しました。当日は、小池法雄岐阜県農業大学校長ほか、各校の校長・学長らが来学し、小見山章応用生物科学部長と締結式を行いました。

この協定は、それぞれの教育力をあわせた「岐阜県域農林業教育システム」のもと連携する5機関が協力関係を深め、県内の優れた学生・人材がその資質や志向に合わせてシステムに従って進学できる機会を提供し、農林畜産業の従事者・指導者および研究者を確保して岐阜県域の農林業を振興することを目的としています。

協定締結後、小見山学部長は「農林畜産業が置かれている状況について、教育機関として教育面で何とか支える方法はないかと模索してきた。各機関の力を結集して農学教育システムのフレームをつくれれば、たくさんの人が農学を分厚く学べる体制ができる」と期待を込めてあいさつしました。

